

幼児が遊び込むための環境の構成と援助の工夫

～ドキュメンテーションの共同作成を通して～

南城市立大里南幼稚園教諭 宮城由季乃

I テーマ設定の理由

近年、幼児を取り巻く環境は急速に変化している。文部科学省のホームページには、子どもの育ちをめぐる環境の変化として、「少子化、核家族化が進行し、子どもどうしが集団で遊びに熱中し、時には葛藤しながら、互いに影響し合って活動する機会が減少するなど、様々な体験の機会が失われている。また、都市化や情報化の進展によって、子どもの生活空間の中に自然や広場などといった遊び場が少なくなる一方で、テレビゲームやインターネット等の室内の遊びが増えるなど、偏った体験を余儀なくされている」とある。

このことから、これからの幼児教育は、幼児自らが積極的に多くの人と関わり、家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、幼児の心を揺り動かすような豊かな体験をすることを通して、生きる力の基礎を育み、発達を促すことの重要性が求められている。

幼稚園教育要領解説第1章総則の第1幼稚園教育の基本には、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」と示されている。また、教師の役割として、「教材を工夫し、物的・空間的環境を構成する役割と、その環境の下で幼児と適切な関わりをする役割とがある」とある。そのため、幼稚園では、幼児の遊びや生活の中で、直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育てていくことが重要であるといえる。幼児が遊びに没頭し、遊び込む環境の構成や援助を行うためには、教師が協力して一人一人の幼児の内面を理解し、幼稚園の職員全員で共通理解と協力体制を築くことが大切である。

これまでの私の保育実践では、幼児が自分の好きな遊びを見つけ楽しむ姿や友達と関わり工夫しながら遊ぶ姿を受け止め、主体性を発揮しながら活動できるように環境の構成や援助を行ってきた。また、週案を活用し、保育を振り返り、幼児の姿から一人一人の幼児理解や遊びの読み取りに努めてきた。しかし、振り返ってみると、遊びの中での育ちが次の活動につながっていく過程を読み取ることが十分ではなかったと感じる。今後、さらに質の高い保育実践を行うために、主体性を発揮しながら活動している姿である「遊び込む」について考えていく中で、教師一人一人が個々で振り返りを行うだけに留めず、幼稚園全体で遊びを共有することでより適切な援助を行えると考えた。

そこで本研究では、ドキュメンテーションを活用し、職員間で幼児の姿を共有することで、遊びの中で育っている幼児の学びを見だし、幼児一人一人の幼児理解・遊びの読み取りを深めて、幼児が自己を発揮しながら遊びに没頭し、遊び込んでいける環境の構成と援助の工夫を探っていきたいと考え、本テーマを設定した。

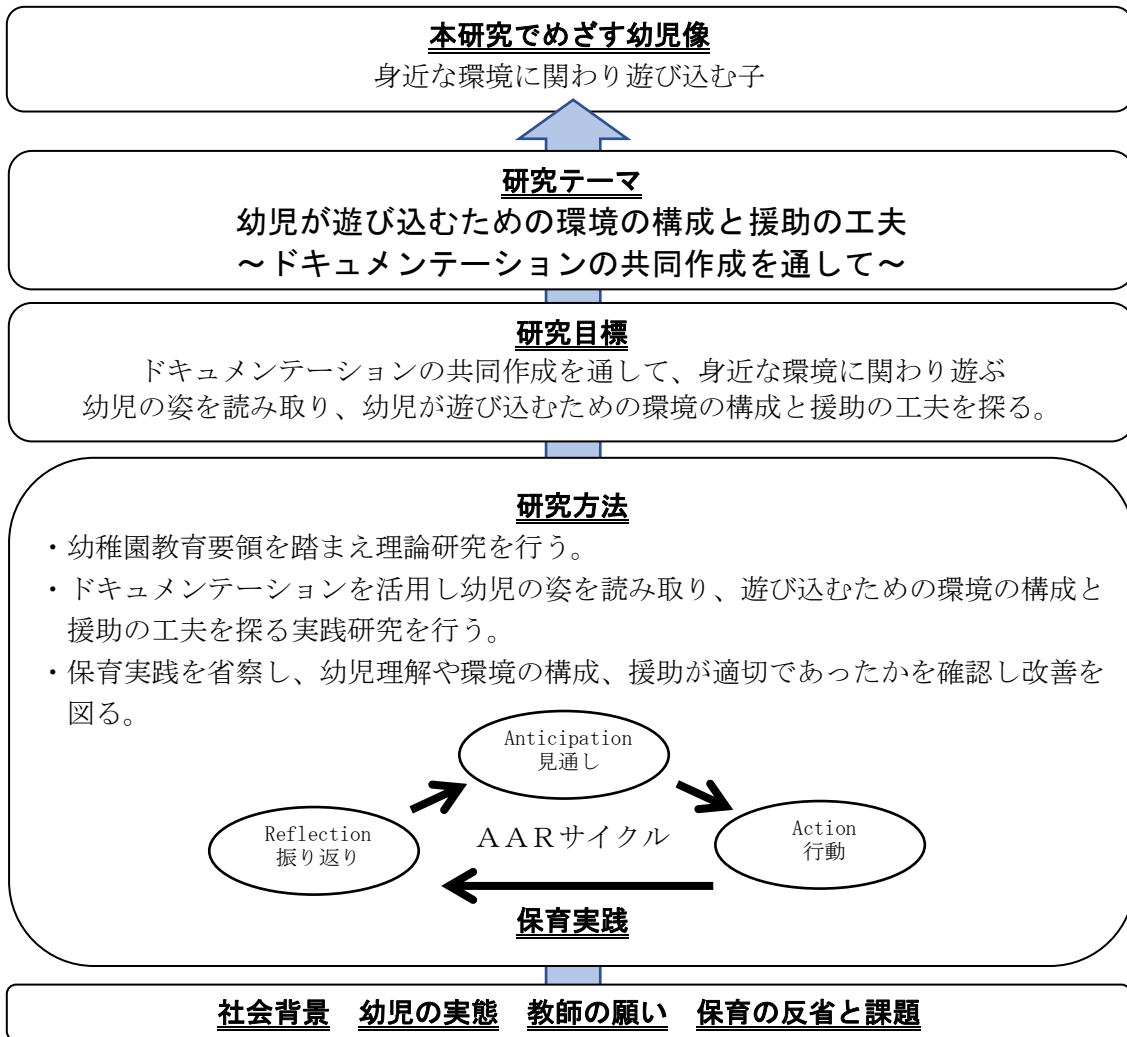
II 研究の目標

ドキュメンテーションの共同作成を通して、身近な環境に関わり遊ぶ幼児の姿を読み取り、幼児が遊び込むための環境の構成と援助の工夫について実践研究する。

Ⅲ 研究の方法

- 1 幼稚園教育要領を踏まえ理論研究を行う。
- 2 ドキュメンテーションを活用し幼児の姿を読み取り、遊び込むための環境の構成と援助の工夫を探る実践研究を行う。
- 3 保育実践を省察し、幼児理解や環境の構成、援助が適切であったかを確認し改善を図る。

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究内容

幼児が遊び込むための環境の構成や教師の援助について検討するために、職員と保育カンファレンスを行い、ドキュメンテーションの共同作成を通して、遊びを読み取り、幼児一人一人の幼児理解を深めていく。

- 1 幼児が遊び込むためには
 - (1) 幼児期の遊びとは

幼稚園教育要領解説「遊びを通しての総合的な指導①幼児期における遊び」では、「幼児期の生活のほとんどは、遊びによって占められている。遊びの本質は、人が周囲の事物や他の人たちと思うがままに多様な仕方で応答し合うことに夢中になり、時の経つのも忘れ、その関わり合いそのものを楽しむことにある。すなわち遊びは遊ぶこと自体が目的であり、人の役に立つ何らかの成果を生

み出すことが目的ではない。しかし、幼児の遊びには幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれている。(中略)自発的な活動としての遊びにおいて、幼児は心身全体を働かせ、様々な体験を通して心身の調和のとれた全体的な発達の基礎を築いていくのである」と述べられている。

高橋(2021)は、「子どもは遊びを通して身体や道具の使い方、他者と協力することを学び、達成感、充実感、挫折、葛藤などを味わうことで、心身ともに調和のとれた発達の基礎を培っていく。保育において、遊びは子どもの育ちを支える非常に大切な活動なのである」と幼児期の遊びの重要性を述べている。

(2) 遊び込むとは

幼児教育じほう(2015)には、「遊び込むとは、幼児が身近な環境に興味・関心をもって自ら関わり遊びを継続し発展させながら夢中になって遊ぶ姿」とある。また、秋田(2006)は、遊びの展開について「遊びだす—遊ぶ—遊びこむ—遊びきる」と表し(図1)、遊び込むについて「一つの遊びが広がりや深まりをもって子どもの心の中で展開していく様相を称した言葉が『遊び込む』である」と述べている。

幼児が遊びに夢中になり没頭して遊ぶこと、つまり遊び込むことで、人と関わる力や集中して取り組む力、自分の感情をコントロールする力、最後まで諦めずに取り組む力等、生涯の学習の基盤となる非認知能力が育っていくと考える。そこで本研究では、幼児が自ら好きな遊びを見つけ、夢中になって遊び込んでいける環境の構成と援助の工夫を行っていく。

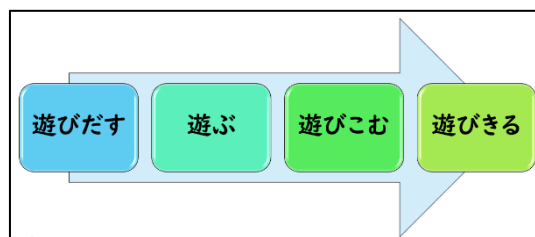


図1 遊びの展開(秋田(2006)を基に作成)

(3) 環境の構成について

幼児が遊び込むためには、幼児が主体的に活動し、幼児の「やりたい」という思いが実現できる環境が身近にあることが求められる。

幼稚園教育要領解説「計画的な環境の構成」では、「幼児が興味や関心をもち、思わず、関わりたくなるようなものや人、事柄があり、さらに、興味や関心が深まり、意欲が引き出され、意味のある体験をすることができるように適切に構成された環境の下で、幼児の主体的な活動が生じる」と幼児が主体的に活動するために、計画的な環境の構成の必要性を述べている。また、文部科学省は魅力のある環境の構成の視点として3つ挙げている(資料1)。

- 幼児の興味や欲求に応じた環境
- 幼児の発達の時期に即した環境
- 幼児にとって新しい出会いがある環境

資料1 魅力ある環境の構成の視点

宮里(2020)は、保育環境の評価について、振り返りや保育で大切にされていることを踏まえ、保育環境を評価する「5つの視点」を述べている。宮里の記述を参考に表1にまとめた。本研究では魅力ある環境の構成の視点(資料1)を基に環境の構成を行い、保育環境を評価する「5つの視点」(表1)を参考に振り返り、次の保育へつながる環境の再構成を図っていく。

表1 保育環境を評価する「5つの視点」

視点	環境の構成
1 気持ち良い生活をしているかな	子ども一人ひとりの自己実現への要求が満たされる環境になっているか
2 注意深く観て、能動的に聴いているかな	子どもの小さな気付きやつぶやきをとらえ、タイミングよくかわることでできる環境になっているか
3 一緒に面白がるのができていかな	それぞれの子どもの発見に関心を示し、寄り添い、一緒に面白がっているか
4 新しいモノ・コトが作り出されているかな	創造的な学びが発生し、根付く環境になっているか
5 社会が生まれているかな	他者を知りたい、貢献したいという子どもたちの思いが実現されるような環境構成になっているか

(4) 教師の援助について

幼稚園教育要領解説「教師の役割」には、「教師が幼児と適切な関わりをするためには、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することが基本となる。教師には、幼児を理解する者としての役割、共同作業を行う者としての役割など、様々な役割を果たすことが求められるのである」また、一人一人に応じることの意味には、「教師が、幼児の具体的な要求や行動の背後に、意欲や意志の強さの程度、心情の状態(明るい気分、不満に満ちた状態、気落ちした気分など)など幼児の内面の動きを察知することが大切である。そして、その幼児がそれらの要求や行動を通して本当に求めていることは何かを推し量り、その幼児の発達にとってどのような経験が必要かをそれぞれの場面で可能な範囲で把握していることが大切である」と幼児理解の大切さを述べている。

そこで、本研究では、ドキュメンテーションの共同作成を通して、職員全体で幼児一人一人の幼児理解を深め、適切な援助ができるように援助の工夫を行う。

2 ドキュメンテーションの共同作成について

(1) ドキュメンテーションとは

ドキュメンテーションとは、エピソードを交えた写真や動画、音声などで遊びや活動の様子を記録し、可視化する保育記録の1つである。中坪(2021)は、最も重要なこととして、「ドキュメンテーションが日々の保育、子どもの状況を把握し、興味・関心がどこにあるのかを判断し、次の日の保育計画をどう行っていくのか、という日々の保育と密接に結び付いていること」と述べている。また、ドキュメンテーションの利点として「ドキュメンテーションとは、保育者、子ども、保護者を結び付けて、相互の学び合いを引き起こし、次の保育を展開していくための重要なものとして位置づけられる」と述べている。保育者、子ども、保護者の利点を表2にまとめた。

表2 ドキュメンテーションの利点

保育者	・子どもたちの興味、どのような学びをしているか、どこでつまづいているのかなどの情報を得ることができる
子ども	・昨日まで、どのような活動をしていたのか、他の子が何をしているのかを確認することができる
保護者	・子どもが園でどのような活動を行っているかを知ることができる

ドキュメンテーションを保育者の記録や保護者への掲示だけで終わらせるのではなく、他の職員と共有することで、幼児の育ちや学び、保育のプロセスを捉えることができ、保育カンファレンスを通して幼児理解を深めることができる。また、子どもたちは自らの活動を振り返ったり、友達と共有したり、刺激を受けたり、話し合ったりすることでより思考や気づきを深めたりしながら遊びを継続、発展させていくことにつながっていくと考える。

(2) 共同作成について

幼稚園教育要領解説「教師間の協力体制」では、「幼児一人一人を育てていくためには、教師が協力して一人一人の実情を捉えていくことが大切である。幼児の興味や関心は多様であるため、並行して様々な活動をしている幼児を同時に見ていかなければならない。このためには、教師同士が日頃から連絡を密にすることが必要であり、その結果、幼稚園全体として適切な環境を構成し、援助していくことができるのである」と示されている。そこで本研究では、ドキュメンテーションを職員と共に作成する中で、幼児の姿を共有し、遊びを読み取り、幼児理解を深めていく。

(3) 遊びを読み取るとは

幼児の遊んでいる姿から遊び込んでいると捉える視点として『子どもの経験から振り返る保育プロセス(通称：日本版SICS)』を参考にしてい

く。SICSでは、大きく3つの特徴があると記されている(資料2)。また、子どもの経験から保育プロセスの質を捉える視点として「安心・安定(Well-being)」と「夢中・没頭(involverment)」という2つの視点が示されている。「安心・安定」から捉える「安心度」、「夢中・没頭」から捉える「夢中度」は養護、教育の視点にも通じている(図2)。

- 1 子どもの「今、ここ」の経験の質から捉える
- 2 「安心・安定」と「夢中・没頭」の2視点から保育プロセスを捉える
- 3 「明日からできることは具体的に何か」を事例から導き出す

資料2「子どもの経験から振り返る保育プロセス」の特徴

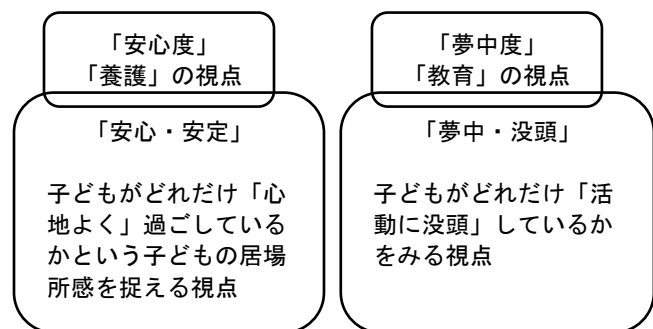


図2 「安心度」「夢中度」の視点

「安心・安定」「夢中・没頭」という視点をもとに、ある瞬間、ある一定の時間における子どもの経験を、「安心度」「夢中度」として数値で表し、遊びの読み取りを可視化することで、他の職員との違いに気付き、さらに話し合いを重ねることで、次の保育につながる具体的な援助につながっていくと考える。数値化する上で重要なことは、数値をつけて評価することが目的ではなく、自分が感じた子どもの状態を数値で表すことで、なぜその値になったのかを他の職員と話し合うためのツールとして活用することである。本研究では、子どもがどれだけ遊びに没頭しているかを見取るため、夢中度の評定(表3)をもとに幼児が遊び込んでいる姿を読み取り、職員間での共通理解を図っていく。

表3 「夢中度」の評定

評定		子どもの姿
1	特に低い	子どもはほとんど何の活動もしていない。
2	低い	子どもはある程度活動しているが、たびたび中断してしまう。
3	中程度	子どもはいつも忙しそうにしているが、何かに集中しているようには見えない。
4	高い	明らかに子どもは活動に参加している様子が見える。しかし、常に精一杯取り組んでいるとは見えない。
5	特に高い	観察中、子どもは絶えず活動に取り組んでおり、完全に没頭している。

(4) 幼児理解とは

文部科学省によると「幼児を理解するとは、一人一人の幼児と直接に触れ合いながら、幼児の言動や表情から、思いや考えなどを受け止め、その幼児のよさや可能性を理解しようとするもの」とある。また、幼児理解を深めるには、「幼児は発達特性上、自分の思いを言葉だけでなく全身で表現します。そのため、教師は幼児の言葉や行為から幼児の心情や経験を理解する必要があります」として、幼児の姿を丁寧に捉えるための理解の視点を3つ挙げている(資料3)。

○人・もの・ことなどの環境への関わりはどうか
 ○何に興味や関心をもち、どのような遊びの課題をもっているか
 ○生活への取り組み方はどうか など

資料3 幼児理解の視点

河邊(2019)は保育記録に取り入れたい視点として医療現場における看護記録の手法である「SOAP」の4つの視点を提唱している(表4)。本研究ではSOAPの視点を取り入れ実践的研究を行う。

表4 「SOAP」の視点

幼児理解	【S】 幼児の姿 Subjective Data (主観的データ)	子どもの遊びの様子を把握する。 ・だれとだれが、どこで、何をして遊んだか ・どのような人間関係が見られたか ・環境とどうかかわっていたか ・どのような道具を使っていたか
	【O】 読み取り Objective Data (客観的データ)	園生活を見通した上で、子どもの育ちにおいてどのような意味があるのかを解釈する。 ・どこに面白さを感じていたか ・どのような経験をしていたか ・何が育っていると考えられるか <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">「遊び課題」と「人間関係」の2つの面を見る</div>
理解に基づいた援助	【A】 教師の願い Assessment (アセスメント、評価)	子どもの生活する姿に即して次にどのような経験が必要なのかを導き出す。 ・どのような成長につながりそうか ・次はどのような経験が必要になるか
	【P】 環境の構成 Plan(計画)	実際の保育の中で次に必要な経験が充足されるように適切な環境を構成する。 ・次の成長を促すためには、どのような環境や活動が必要か ・どのような援助が必要か

VI 研究の実際

実践事例1『職員との共同作成から遊びを読み取るドキュメンテーション』

園生活の中で様々な遊びから幼児の学びを読み取り幼児理解を図るため、週1回の週案会議の前にSOAPの視点で各遊びをの読み取り、共同でドキュメンテーションの作成を行う。

(1) 作成の方法



① カンファレンス前の準備 <遊びの写真を提示する>

- ・カンファレンスを行う前に、園内で楽しんでいる遊びの写真を用意する。
- ・写真は「この場面いいな」と思った職員が用意する。
- ・カンファレンス前に写真の撮影者がタイトルと幼児のつぶやきを事前に記入する。



② カンファレンスを行う <写真から読み取る>

- ・SOAPの視点を基に、全職員で話し合う。
- ・話し合った内容を①の用紙に直接または、裏面に手書きでメモをする。

【S】【O】【A】【P】を記入している



③ 貼り出す <仕上げて掲示する>

- ・保護者の掲示用に【S】幼児の姿・つぶやき
- 【O】読み取り・学びを記入する。
- ・パソコンで打ち込み、仕上げる。

【S】【O】のみ記入している

完成♪

共同での作成

(2) 活用の方法

『浮かべてみよう』5月18日～7月上旬



【遊びの始まり】 幼児の姿

梅雨時期の学級前の水たまりにペットボトルが浮かんでいるのを発見!!「葉っぱも浮かぶかな」と浮かべてみる。

浮かべた葉っぱを動かそうと、手で水を掻いていると気付いた友達が集まってきて、様々な葉っぱを浮かべ、一緒に進めだした。

次の日、「進め～進め～」と葉っぱ遊びを楽しんでいた子ども達は学級前の小さな水たまりから大きな水たまりを求め、タライに溜めた水から砂場にできたプールへと移動した。それと同時に葉っぱの舟から牛乳パックやトレーを使った舟づくりを楽しむようになっていった。

浮かべてみよう①

5月23日『ドーナツプール工事中!!』



<p>【S】 幼児の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の舟が完成すると「作った舟を浮かべたい」とA児がプール作りを始める。 ・A児が掘り出した場所の隣には、泥遊びで掘った池があったが、A児は「ホテルのプールみたいな、ドーナツみたいな形のプールにしたい」と新たにプールを作り始めた。
<p>【O】 読み取り</p> <p>夢中度 4</p>	<p><u>A児について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・池には人がたくさんいて邪魔されないとこでやりたかったから舟用の新しいプールを作りたかったのかな? ・自分が作った大切な舟だからきれいなプールに浮かべたいのかな? ・池は泥水になっていたため、「舟を浮かべるのはきれいな水!!」というイメージでプール作りを始めたのかな? <p><u>一緒に活動していた子ども達について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂場で使う遊びのスコップではなく、本物のシャベルを使っていることに興味をもち、自分も使ってみたいと集まってきているな。 ・土の硬さに気付き、道具を変化させている。 ・「重たい」「難しい」と言いながら、少し難しいことを楽しんでいる。
<p>【A】 教師の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A児のイメージ「ホテルのプールみたいなプール」のような水のきれいなプールを作り、舟遊びを楽しんでほしい。 ・水を溜めるためにブルーシートやビニール袋を使い、砂場でプール作りの経験を生かしながらいろいろなことを試したり工夫したりしてほしい。
<p>【P】 環境の構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プール建設地の近くにブルーシートを用意し、いつでも使えるようにする。 ・シャベルを使用するときには周囲に配慮し、安全面に気をつける。

幼児の変容

砂場でのプール作りの経験から「水を溜めるにはブルーシートが必要」と気付き、ブルーシート探しが始まる。水を溜めるために探している子やプールのようなきれいな水を溜めるために探している子とそれぞれ思いは違うが「水を溜めるためにブルーシートを使う」という同じ目的で活動が進んでいった。

浮かべてみよう②



5月25日『ドーナツプールに浮かべてみよう!!』

R4.5.25

まんなかが みえるように
ぶるーしーとの まんなかも
あなあげよう

大きな葉っぱを浮かべ、ぞうりと葉
っぱの違いを観察中。

ぞうりも うかんだよ
めっちゃ すすむ～

ひっくり返したら
どうなるんだろう？

ぞうりをひっくり返したり、沈めてみ
たり、いろいろなことを試しています。

きれいなみずの ぶーるに なってる。
ぶるーしーとしたから どろが はいっ
てこなくなった。よかった～

みず もっといれたほ
うが いいな。

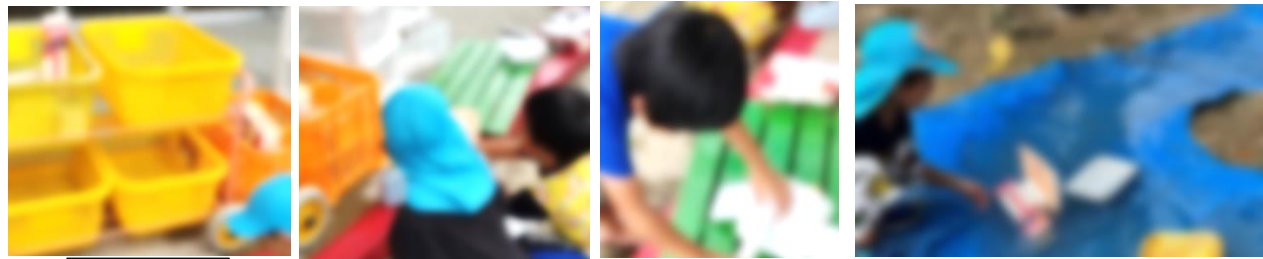
ぞうりが浮かんだ!!
水を溜めていると脱げたぞうりが浮かび、葉っぱよ
りもよく進むことに気が付きました。

【S】 幼児の姿	・ドーナツプールをイメージし、ブルーシートの真ん中をくり抜いた子ども達。穴に合わせてブルーシートを敷き水を溜めた。きれいな水がたまっていることを喜んでいる。途中で脱げたぞうりが良く浮かぶことに気づきぞうり浮かべを楽しんだり、落ちた葉っぱを沈めて浮いてくる早さを競争したりして「水に浮く」「浮いてく」ことを楽しんでいる。
【O】 読み取り	・砂場での経験が生きている。 ・物によって浮力が違うことに気が付いた。
【A】 教師の 願い	・自分の気づきを友達に伝えたり、友達の考えを受け入れたり、友達同士で教え合いながら舟づくりを楽しんでほしい。 ・様々な素材の特性に気づき、遊びに取り入れながら製作を楽しんでほしい。
【P】 環境の 構成	・様々な素材が使えるように製作用のワゴンをドーナツプールのそばに配置する。 ・舟作りが楽しめるように、家庭に呼びかけ、様々な素材を集める。

夢中度
4

幼児の変容

製作用のワゴンにある様々な素材から自分のイメージで材料を選び出し、自分の舟作りを楽しんでいる。舟ができあがると目の前にあるドーナツプールに浮かべ、「もっと浮かぶようにする」と何度も作り直すなど、試したり工夫したりする姿が見られた。



ワゴン設置

材料探し

どうやってくっつけよう…

浮かぶかなあ



6月2日『おれたち!!舟職人』



<p>【S】 幼児の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを形にしようと気の合う友達同士で集まって、舟作りに取り組んでいる。ドーナツプールのそばで浮かべては直してを何度も繰り返している子や素材が豊富にある学級前で舟作りを楽しんでいる子がいる。 ・学級前で製作している子ども達は、みんなそれぞれが自分の舟を作ることに一生懸命で一人一人が集中して自分の舟作りを楽しんでいる。
<p>【O】 読み取り</p> <p>夢中度 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製作用のワゴンや様々な素材を近くに設置し、コーナーを作ることで自分のイメージを実現させようとどンドン試したり工夫したりするようになってきている。 ・浮かべて遊ぶことを楽しむ子と舟作りを楽しむ子とそれぞれ個性があって面白い。 ・気の合う友達と集まって同じ活動(舟作り)を楽しんでいるが、自分で作ることを楽しみ、友達同士と一緒に作っているわけではない。同じ場に一緒にいるのが安心するんだな。
<p>【A】 教師の 願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舟作りを楽しみ、遊びが続くことで試したり工夫したり、没頭する姿が見られるといいな。 ・遊びを楽しむために様々なアイデアが生まれるといいな。
<p>【P】 環境の 構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舟作りを存分に楽しめるように見守る。 ・舟作りに必要なものや作った舟をさらに工夫できる素材や道具を用意する。

幼児の変容

気の合った友達との関わりの中で、舟作りを楽しんでいる。舟作りを通して、様々な素材や道具を使いながら素材の違いに気付き、試したり工夫したりして自分のイメージを表現する楽しさを味わっている。

舟が完成するとドーナツプールで実験開始!!「進め～」と手で水を掻き、波を起こしたり、風で舟が進む様子を見ながら、どうやったら早く進むのか考える姿が見られた。

浮かべてみよう④



6月21日『スライダーも付けちゃいました!!』

ドーナツプールの完成後、風で船が動いたり、波で動いたりことを楽しんだ。プールから連想して、「もっといいこと考えたってば、プールにあるスライダー付けたら面白いはずよ」と、スライダー作りに取り掛かっています。

これ なにつくったのー？

みててよ、こっちから
すべっていくんだよ

自分のイメージを形にするために、園内を探索「いいもの みつけた」と必要なものを考え、見えそうなものを選び、生み出す力が育ってます。



<p>【S】 幼児の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浮かんだ舟が風や波で動くことを楽しんでいると、新しいアイデアが!!「プールにあるスライダーを付けたら面白いはずよ」とスライダー作りが始まった。 ・ 園内を探索し、スライダーにする道具を集め、かごを土台にするこのスライダーが完成!!水を流し、舟を乗せるが、すのこの隙間から水が漏れ、思うように進まない。水が漏れないように、すのこにビニールを貼り、作っている。
<p>【O】 読み取り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライダーにするすのこの間から水が漏れないように、砂場でのプール作りでの経験を生かし、ビニールを貼り付けている。遊びの中で得た学びが繋がっている。 ・ 自分のイメージを表現しようと、自分のイメージに合う道具を園内のいろいろなところから見つけてくるのもすごい!!
<p>夢中度 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達の過程Ⅱ期【自分と友達】に入り、友達との関わりも増えてきている。 ・ 舟作りでも友達同士で相談し合う姿が見られるようになってきている。
<p>【A】 教師の 願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 速さ勝負をする等、友達と一緒に遊ぶ中で、関わりを深めてほしい。 ・ 様々な友達の考えを聞き、受け止めたり自分の考えを伝えたりしながら遊びを進めてほしい。
<p>【P】 環境の 構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の考えを受け止め、頑張っていることや困っていることに共感し、他の幼児に聞いてみたりしながら、友達との関わりをつないでいく。

幼児の変容

近くの水道からスライダーに水を流し、自分の舟が流れていく様子を楽しんでいる。やり方やうまく流れるコツを友達に教えたりしながら、伝え合うことで遊びが豊かになっていった。建設中に掘った土からきれいな泥団子が作れることに気付き、泥団子遊びへと遊びが変わっていった。

考察

SOAPの視点で遊びを読み取り、全職員でドキュメンテーションを共同で作成したことで、幼児の育ちや学びを共通理解することにつながった。共同作成を通して、それぞれの遊びに対して教師の願いや環境の構成について話し合うことで、全職員が同じねらいを基に援助を行うことができ、幼児の主体的な活動につながっていったと考える。幼児は遊びが途切れることなく前の続きから積み重ねていくことができ、遊びに没頭する活動が増えていったと考える。

毎週の週案会議の前にそれぞれの遊びを読み取ることで、幼児の姿をしっかり捉え、幼児の育ちに合わせた環境の構成や援助について話し合うことができ、次につながる保育計画の立案につながり、主体的に遊ぶ環境の構成に生かすことができたと考える。

ドキュメンテーションで取り上げる遊びを全体的に夢中度の視点で読み取ったが、一つ一つの夢中度が重要なのではなく、夢中度の高い遊びが発展し積み重なっていくことで遊び込むにつながっていくと考える。

実践事例2 『幼児との共同作成、遊びを振り返るドキュメンテーション』

<p>【S】 幼児の姿</p>	<p>・登園すると朝の支度を済ませ、好きな遊びを楽しむ子ども達。昨日の続きを楽しむ子や「今日は何して遊ぼうかな」とやりたい遊びを探す子の姿が見られる。やりたい遊びを探していた子が今日の遊びを発見!!でも、すでに遊びを楽しんでいる子達が盛り上がっていて、なかなか遊びに入っていけず戸惑う様子が見られた。</p>
<p>【O】 読み取り</p>	<p>・周りの子が何をやっているのか分かるともっと遊びに入りやすくなるのかな？</p>
<p>【A】 教師の 願い</p>	<p>・自分が参加していない遊びでも友達がどんな遊びをどんな風に楽しんでいるかが分かることで前の続きを楽しんでいる友達の中にスムーズに入ってほしい。 ・自分が参加していない遊びを見ることで様々な遊びがあることに気付き、興味をもってほしい。</p>
<p>【P】 環境の 構成</p>	<p>・遊びごとに時系列で、写真を掲示する。</p>

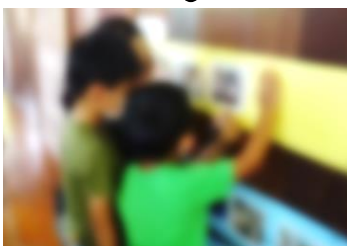


遊びの流れを掲示

幼児の変容

友達がどんな遊びをしているのかを確認したり、写真に写っている友達に声をかけたり、「俺も明日やってみよう」と友達の刺激を受け、興味をもった遊びをやってみようとする姿が見られた。

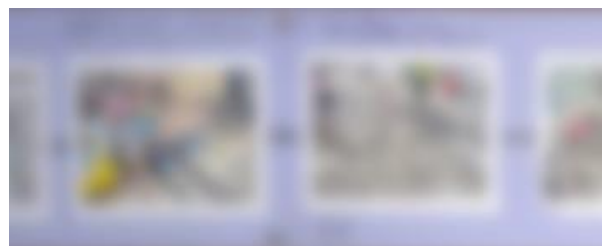
検証保育後の研究会にてアドバイスをもらう
子どもと一緒にドキュメンテーションを作っていくのも良い。



幼児と一緒に振り返る



自分で記入する子も!!



幼児が記入「みずあそびをしています」

考察

園内での遊びを紹介し、それぞれの遊びに途中からでも参加しやすいように遊びの流れを貼り出したことで、友達がどんな遊びをしているのか興味関心が高まり、いろいろな遊びに挑戦するようになった。

研究会でアドバイスを受け、子ども達と一緒に遊びを振り返り、その時の思いや感じたことなどを記入していくことで、子どもとの対話のツールとなった。また、幼児ならではの表現を知ることができたり、子どもの思いに気付くことが多くあり、幼児理解を深めることにつながったと考える。

実践事例3 『保護者に学びを伝える、保護者と振り返るドキュメンテーション』



各学級前に遊びの様子を知らせるボードを設置した。学級で盛り上がっている遊びや室内での遊びの様子を掲示し、保護者や他の学級の幼児が見られる環境を整えた。

幼児の姿

迎えに来た保護者に出来事を話したり、他の学級の遊びの様子を見て刺激を受けたり、参考にしたりする姿が見られた。

保護者の姿

写真を見て、保護者から「今日やったの?」と話題にする姿が見られた。

考察

学級前に掲示したことで、幼児と保護者が写真を通して遊びの様子を伝え合うことにつながった。保護者から子どもに聞いたり、子ども達が写真を指差しながら説明したり、自分が経験したことを保護者に伝え、認められることで、安心して日々の遊びを楽しむことにつながっていったと考える。

VII 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) SOAPの視点でドキュメンテーションを共同作成することで、全職員が遊びの様子や学びを把握し、幼児一人一人の興味や関心を捉えることができ、幼児理解を基に、次の保育計画に生かすことができた。
- (2) 全職員でドキュメンテーションを活用してカンファレンスを行い、幼児の育ちや学びを共通解することで、園全体で幼児一人一人に合わせた援助を行うことができた。
- (3) 幼児にとっては、貼り出したドキュメンテーションから刺激を受け、興味をもった遊びに躊躇することなく加わることができた。
- (4) 主体的に遊びが展開されていくなかでも、環境の構成の視点や評価する視点があることで、その視点を基に、園の環境の構成について再確認することができた。

2 今後の課題

- (1) 保護者に知らせるために、カンファレンスで学びを読み取ったドキュメンテーションを職員室の外に掲示したが、ゆっくり読んでいる姿があまり見られない。掲示の工夫や配付をする等の工夫が必要である。
- (2) 遊び込んでいると捉える視点として、夢中度を用いて遊びを全体的に読み取ったが、個々を読み取る視点として夢中度を取り入れ、カンファレンスを行い、さらに幼児理解を深めていきたい。

<主な参考文献>

- 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年
中坪史典／山下文一／松井剛太／伊藤嘉余子／立花直樹 編集委員 高橋真由美 編者
『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』 ミネルヴァ書房 2021年
河邊貴子他 『発達167 特集 子どもに会い・語る「保育記録」』 ミネルヴァ書房 2021年
宮里暁美 『4・5歳児クラス編 遊びを広げて学びに変える 思いをつなぐ 保育の環境構成』 中央法規 2020年
『幼児教育じほう5月 特集 遊び込む幼児』 全国国公立幼稚園・こども園長会 2015年
中坪史典 『子ども理解のメソロジー 実践者のための「質的実践研究」アイデアブック』 ナカニシヤ出版 2012年
『子どもの経験から振り返る保育プロセス—明日のより良い保育のために—』 2010年
『幼稚園じほう6月 特集 遊びこむ力』 全国国公立幼稚園・こども園長会 2006年